栃木県畜産酪農研究センター　草地飼料研究室

イタリアンライグラスの品種と栽培のポイント

飼料価格が高止まりしているなか、良質な自給飼料を確保することは重要な課題となっています。

自給飼料の増産には色々な方法がありますが、「奨励品種の作付」や「適期播種・適期収穫」は、従来の栽培方法に新たな作業などを加えることなく、効率的な収量アップが期待できます。

今回は、10月から播種が始まる代表的な冬作飼料作物であるイタリアンライグラスの奨励品種と栽培のポイントについて紹介します。

○奨励品種を作付けしましょう！

県では毎年、イタリアンライグラスについて様々な品種の栽培試験を行い、地域の気象条件にマッチした、収量や病気への抵抗性に優れた品種を**県の『奨励品種』**に指定しています。

令和６年度の奨励品種は表１のとおりで、収量性だけでなく、耐倒伏性に優れた品種を指定しています。

これらの品種を作付けすることで、それ以外の品種よりも約10％の収量アップが期待できます（図１）。

表１　イタリアンライグラスの奨励品種一覧

品種	早晩性	草丈(cm)	耐倒伏性
タチマサリ	早	108	やや強
タチユウカ	早	104	やや強
タチムシャ	中	118	やや強
さつきばれEX	中	114	強

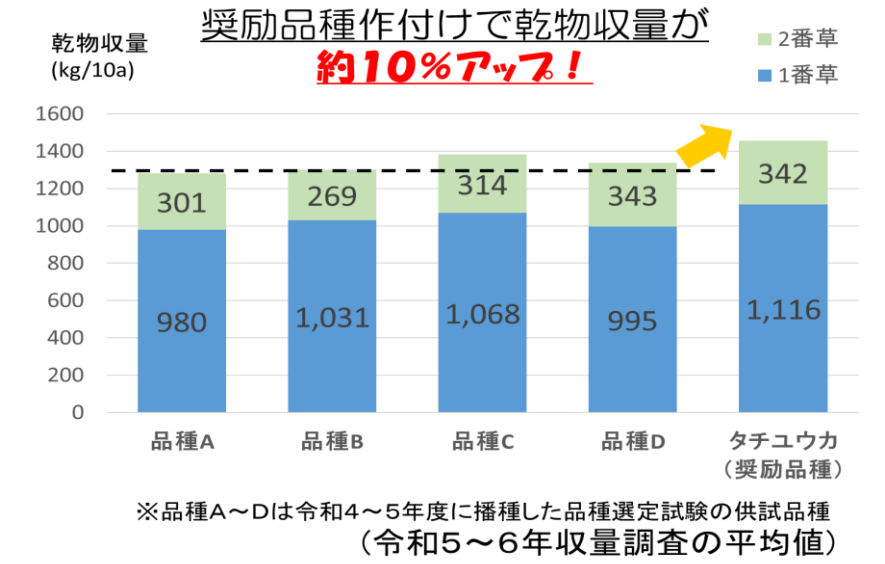

図1　奨励品種とその他の品種の乾物収量

○適期播種と適期収穫を心がけましょう！

牧草栽培では適切な時期に播種や収穫をすることがとても重要です。

図２は、播種時期の違いによる収量の差を示したものです。図からわかるように県北地域では11月中旬以降収量が急激に低下してしまいます。

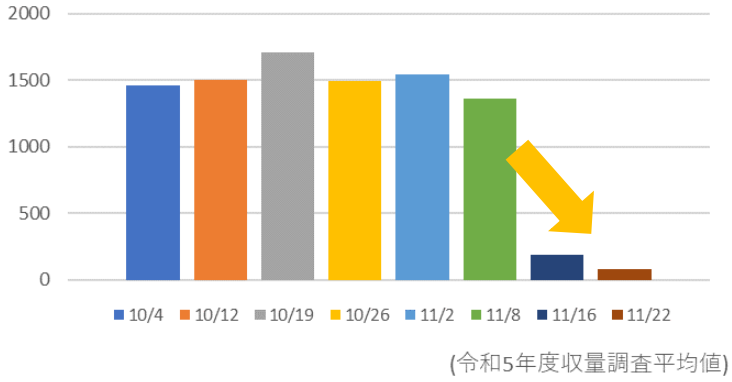

図2　播種時期の違いによる乾物収量の差

また、収穫時期よって栄養価にも違いが生じ、表２のとおり、出穂期を過ぎるとCP やTDNが低下してしまいます。

表2　イタリアンライグラスにおける熟期別栄養価の変化

	CP(%)	NDF(%)	TDN(%)
出穂期	12.5	61.1	66.9
開花期	9.7	66.1	57.6
結実期	5.9	68.0	46.2

加えて結実期以降に収穫すると２番草の収量が下がるという知見もあるので、刈り遅れには注意しましょう。